



千葉労働動員

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.5.31 No. 3402

「技能おまかせ」
「工場の口」の方が
信頼できる?!

「開始した」 15万人体制攻撃

現場からの職場討議 要求づくりへ

—車両技術分科会・常任委員会開く—

「…五万人まで減らせるか、五万五千人になるか、いずれにしても減ってゆく。…仕事の三分の一は線路とか電車の保守です。これを克服していくのが、ひとつの大きなテーマです」「ウチは定年が六〇才ですが、原則として、五十才以上は関連事業に出ていただくことになる」(THE WAITC HER・住田正二インタビュ)

住田社長の、この許すことのできない人べらし、大合理化”宣言”にもとずき、東日本当局は本格的にその具体化に乗り出した。五月十日提案の「新しい保全の考え方による車両の新検査方式」(新検査方式)と、時を同じくして発表された「使い捨て車両」の導入こそ、「五万人体制」づくりにもつれた、検修職場への大攻撃である。

「当局」何でもタタク・バラス昔ながらの技能に頼る、画一的定期検査体系から「より一層の効率化、機械化、システム化を図る」(機械、コンピュータ化万能神話)「当局」「新検査方式」の内容として、主なものでも、①検査と消耗品管理の分離、

要するにコンピュータで消耗品予測プログラムを作り、消耗品を計画取り替えることによって、定期検査時は、基本的に機能検査、在姿検査のみにするというものである。

②仕業検査と出区点検の重複作業を廃止して、「列車検査」に一本化する。

ここでは実質的な仕業検査の省略である(乗務員にとっては出区点検の廃止)。これは、さらには派出検査体制の廃止をも意図したものと見える。

③「分解検査」から「非分解検査」へ転換する。
④各機器の劣化特性に対応した検査方式・周期を決定する。

分解検査は行わないとするもの、全般検査・重要部検査ですら常に「分解」するのは、台車・主電動機・空気圧縮機のみとされている。これは、工場の廃止、大幅縮小に直結する。④では、要するに壊れない部品は検査する必要はないというものである。

※これまでの永い年月と苦勞をかけて蓄積してきた技術力も技術者も、効率化のためには、阻害要因でしかない、人よりもコンピュータの方が信頼性は高い、というのだ。

そこには、労働者のことも、乗客の安全も、完全に無視し切り捨てるといふJR東日本当局の経営姿勢が、露骨に現れているのである。

「試行行結果は
組込みに
説明しない」

【当局】「当面山手電車区所属の二〇五系電車を対象に、九一年度末ダイ改で導入」「今年七月一日より試行を行う」「試行結果を組合に説明するつもりはない。具体的中身については、東日本地域本社において、労働条件として提案する」

※「当面二〇五系電車、東京から」としてはいるが、しかし、特に設備投資等も必要ない仕業検査の廃止

等はおく早い時期に全検修職場、全車両に拡大しようとする狙っていることは明らかである。しかも「実施は東京から」「組合とは話し合わない」と協議している。

要するにJR総連革マルと結託し、まともな議論も行わず、まず実績—既成事実化し、それを唯一の根拠として、この無謀で超反動的、大合理化を強行しようというのである。

検修職場の解体、安全の全面的解体につながる「新検査方式」を断じて許してはならない。

＝全力動員です＝

6.23

明治公園 正午
(東京・JR有明駅下車5分)

反戦 共同行動